

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	43 日本語文化学専攻	責任者	上村圭介		
基準5	学生の受け入れ	自己評価	A		
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。					
<<回答>> 前期課程、後期課程ともに、おおむね目標が達成されており、安定的な入学者確保やオンライン入試に対する対応において、若干改善すべきところはあるが、本評価に相当するとした。					
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。				
★<学生の受け入れ方針> (記入してください。)	日本語文化学専攻博士課程前期課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。 1 (1) 学部で修得した基礎学力を身につけている。 (2) 高度な日本語能力を身につけている。 2 (1) 高度な専門知識と幅広い言語分析能力、文献学的考察の手法を身につけたいと考えている。 3 (1) 専門分野の研究を主体的に推し進め、学内外の研究会、学会、シンポジウムなどでそれぞれの研究成果を、積極的に発表したいと考えている。 (2) 将来、研究者、教員、高度職業人として国際社会、地域社会において言語研究、多言語文化交流に携わりたいと考えている。			変 更	有 () 無 (○)
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15				
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針				
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針				
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。				
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程				
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報				
評価の視点3※	専攻ごとに入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。根拠資料→A3-11* 入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿				
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程				
★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。					
<<回答>> 入学願書を精査し、筆記試験の結果をふまえて、研究指導を担当する専攻教員全員で面接試験をし、合否判定を行っている。		<<資料名>> 43-C5-1:2022年度第4回研究科委員会議事録要旨（議案 6.			

		2023 年度外国語学研究科入 試験の出題および採点委員の 選出について)
★項目 (2) 5-2② オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施 (オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。)		
<回答> 海外指定校推薦入試については、面接をオンラインで実施する際に、ガイドラインに則って本人確認を行うことで公正に実施している。		
評価の視点 5	入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。(一般入試及び多様な入試への対応) 根拠資料→A5-3Web サイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程	
★項目 (2) 5-2③ オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保 (受験者の通信状況の配慮等) (オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。)		
<回答> 海外指定校推薦入試については、面接をオンラインで実施する際に、受験者は指定校の施設・設備を利用して面接を受けることとし、受験者の通信環境による不公平が生じないようにしている。		
◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。(ない場合は「なし」と記入)		
<回答> なし。		
点検・評価項目 (3)	5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。	
評価の視点 1 ※ 【基礎要件●】	専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。(2021年5月1日現在) 注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率 (5年平均) 定員超過→2.00 以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表 2、表 3、基礎要件確認シート 16	
評価の視点 2 ※ 【基礎要件●】	専攻の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。(2021年5月1日現在) 注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率 定員超過→2.00 以上(改善課題) 定員未充足→修士課程 0.50 未満(改善課題)、博士課程 0.33 未満(改善課題) 根拠資料→大学基礎データ表 2、表 3、基礎要件確認シート 16	
評価の視点 3	収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応	
★項目 (3) 5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策 (今後実施予定のものも含む) 根拠資料を用いて回答してください。		
<回答> 収容定員については、前期課程、博士課程ともに適正範囲にあるため、改善策は検討していない。		<資料名> 43-C5-2：なし
点検・評価項目 (4)	5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
評価の視点 1 ※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 根拠資料→B2-51 2023 年度点検・評価シート B2-52 会議録 (または準ずるメール記録)：(開催日) 2023 年度自己点検・評価について	
評価の視点 2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。	
★項目 (4) 5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。		
<回答> なし。		<資料名> 43-C5-3：なし

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項 (工夫していること) を、意図した成果 (目標) を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・	
-----	--

特色

Ⅲ 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題

Ⅳ 【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B票№ or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2019-5Ⅲ-1(5-3)	(定員充足率の向上) 専修免許状の周知	日本語学科卒業生の中に国語教員を目指す者の中に、専修免許状取得希望者が少数ではあるが見込まれる。日本語教員志望の学生に専修免許状について周知を図り、関心のある学生を紹介をする。	現状では日本語学科卒業生の国語教員志望者に、大学院で学ぶことにより「専修免許状」の取得ができることを周知し、学科卒業生の大学院入学につなげる。毎年国語教員志望者数は多くないため、大学院への進学者がない場合は D、1名でもある場合には C、2年連続してある場合には B とし、進学者が 1、2名連続して恒常的にあることで A という評価とする。	A(100%)：定員充足率安定的向上 B(80%)：定員充足率の連続的向上 C(50%)：定員充足率の向上 D(20%)：	2022 未結果：A 2023：A

Ⅴ 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し、公表されている。入学者選抜実施のための運営体制として、学部長ならび両学科主任からなる入試委員会等を設置し、教授会において入試総括、入試改革案審議や各種入試の可否判定について説明・提案をおこない、学生募集及び入学者選抜の入学者選抜を公正に実施されている。これらの点において、学生の受け入れ体制の整備と運営状況は適正であると評価できる。</p> <p>オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施については、オンラインによる面接試験に関するガイドラインを作成しているとともに、不正防止策の方針を明示している。昨年度の研究入試においてオンラインによる入試を行い、問題なく面接試験を実施することができたとのことであるが、「オンライン入試に対する対応がまだ不十分である」との自己評価されており、今後のさらなる取り組みが期待される。</p> <p>入学定員未充足は、5年平均値で修士課程 0.50 未満、博士課程 0.33 未満が、それぞれ改善課題となり、収容定員未充足は、修士課程 0.50 未満、博士課程 0.33 未満が、それぞれ改善課題となる。入学定員充足率は、2018 年度よりは是正/改善勧告の対象となる未充足だったが 2019 年度に回復したものの、2022 年度には 0.40 だった。また、2022 年度の収容定員充足率は 0.70 であった。</p> <p>これらへの対応として「大学院説明会で大学院についての説明等」をあげているものの、根拠資料によれば、参加者数は少なく、本専攻への興味を示した参加者の有無については読み取れなかった。また、「学部から国語科教職課程の専修免許をとるために進学する学生が増えるよう、学部の学生に大学院についての説明等を行っている」とのことであり、B 票によれば大学院へお進学者数に基づいた目標値を掲げ、改善に向けての取り組みがうかがえるが、今後、これらの効果について検証するとともに効果的な受験生獲得に向けての方策について検討・実践を継続されることを期待する。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>学位授与方針、教育課程の編成方針と連関した入学者受け入れ方針を前期・後期課程ごとに設定し HP 等で公表している点は根拠資料から確認できる。</p> <p>また海外指定校推薦入試における面接をオンラインで実施する際に、受験者の通信環境による不公平が生じないよう受験者は指定校の施設・設備を利用して面接を受けることとしている工夫は評価できる。</p>

入学者選抜の制度化に関しては、課程ごとに入試委員会を組織し、「入学センター規程」及び「大東文化大学入学者選抜試験規程」により、公正な入学者選抜を実施するための運営体制が整備されているものと評価できる。また、海外指定校推薦入試といった独自の選抜法を導入していることも特筆に値する。

2023年度の博士課程前期課程の入学者志願者数は13、入学定員に対する5年平均比率は0.72、収容定員充足率は0.90、博士課程後期課程の志願者数は1、入学定員に対する5年平均比率は0.60、収容定員充足率は1.00となっている。

入学定員に対する5年間平均比率も博士前期課程0.72、後期課程0.60であり改善課題とはならないものの2023年度後期課程の入学定員充足率が0.00であった。日本語学科卒業生の中に専修免許状取得希望者が少数ながら見込まれるとある。このため継続して日本語教員志望の学生に専修免許状について周知を図り、関心のある学生を紹介する取組みを行うとともに当該取組みについて検証を行い入学定員充足率が改善されることが望まれる。並行して当該取組み以外の方策も検討するなど多面的な検証・検討を行い更なる改善・向上を期待する。

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注> 「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。